木澤成蕭編纂

小學初等修身幼訓首編

卷上

175
7
296

85

12

大日本教育會書籍館
一八函
三架
四一號
二册

函架號

K110,1
207

B 1
210

木澤成肅編纂

小學初等 修身幼訓首編

卷上

明治十五年十二月廿七日版權免許

東京帝國大學圖書之印

修身幼訓を

つくて

參事院議官從四位福羽美靜

まうすのもの

小學初等修身幼訓首編

緒言

一余嚮ニ文部省須布ク小學教則綱領ニ遵ヒ、修身幼訓ヲ編纂シ、已ニ之ヲ上梓シ、世ニ行ハレリ、頃社友某請テ曰、第一年前期生

徒ノ爲メニ更ニ其首編ヲ輯セヨト、乃チ此編ヲ爲シ、其需ニ應セリ、

一此編引用スル書ハ、貝原氏著述セル五常訓、初學訓、童子訓、大和俗訓ノ簡短ナル句ヲ摘錄シテ、以テ童蒙ノ誦讀ニ充ツ、尤モ修身ニ關スル緊要ノ字ヲ大書シ、其意義ヲ童蒙ニ覺知セシメ、道德ノ門ニ入ルノ階梯ト爲ス、

一此編ハ、修身幼訓首編ナルヲ以テ、文章簡短ニシテ入リ易ク、

意義浅近ニシテ解シ易キヲ専トセリ、生徒此編ヲ讀畢テ、次篇ノ幼訓ニ入ラバ、益シ其全豹ヲ窺フニ足ラン、

明治壬午臘月　編者識

小學初等

修身幼訓首編上

木澤成肅編纂

第一

○仁

仁とは、衆人を慈み、

萬物を愛するなり、

○義と義は、君に仕へて身を致し、

利を好まず、財を貪らず、行ふべきことを失はざるなり、

○禮禮とは、貴きと、老たるを敬ひ、賤きと、幼きを侮らず、

萬の作法正しきを、失はざるなり、

○智

智とは、物理に通し、人の善惡と、萬の是非とを、能く知り辨ふるなり、

○孝

孝とは、能く父母に事まつり、父母死して後も祭を怠らず、我が身を慎み行を正くし、

我が身を立てゝ、父母の名を揚るなり、

○悌　悌とは、兄弟の親みなり、兄は弟を愛し、弟は兄を敬ひ、

兄は弟惡きとて、愛を薄くせず、弟は兄惡きとて、不敬ならざるなり、

○忠　忠とは、君主に仕へて能く、君主の

恩我重んじ私を忘れ、我が身を致して顧みず、よく力を盡すなり、

忠

○信

信とは、朋友と交りて偽なく、萬のこと、始め終ありて、約束の違はざるなり、

○愛

愛とは、人を憐むなり、人を惡み、疎

ぜざるなり、
其交りの親疎に因りて、
厚薄あれども、
總て愛せざることなし、

○

敬

敬とは、人を敬ふなり、人を侮り、輕

ぜざるなり、
其位の高下に因りて、深
淺あれども、
總て敬せざることなし、

○

謙

謙とは、自ら卑ふして、誇らざるな

り、人に下りて、問ふことを好み、人の諫を聞て、我が過を改め、善に従ひて、怠らざるなり、

○恕

恕とは、我が心を推して、人の心を謀るなり、我が好む所は、人も之を好む、宜しく人に施すべし、

第二

○誠とは、偽なきなり、人の心は誠を主とす、善を行ひても、誠なければ、なす事皆ひが事なり、

故に萬のこと誠を本とすべし、

○勤とは、力むるなり、道も、勤めざれば、行はれず、早く起き、晏く寢て、其家

業を能く力むれば、各〻其業治る、

古語に人生は、勤ふあり、勤むれば、乏しからずと、

○忍

忍とは、こらゆるなり、堪忍するをいふ、

忍に二あり、我が心に嫌ふことを、こらへて念らず、

又我が心に好む物を、こらへて、貪らず、是を念と、慾

を忍ふなり、

○親子

父子は恩を主とす、

親としては、

子を慈み愛して、禮義を教へ、

子としては、能く父母に事まつり、

父母理なきことを言ふとも、怒り怨むることなな

く、恐れて從ふべし、
又大孝とは、德を積て立
身するなり、
總て學問諸藝を修め、天
下に譽を得るは、皆孝行
なり、

○君臣

君は、臣を仕ふに禮を以てす、臣は、君に事まつるに、其恩を思ひて、偏に忠を勵むべし、
主君の惡きは、己が心、忠

ならざる故なりと、身を攻め、心を盡して仕ふべし、

○夫婦　夫婦は、人倫の本なり、夫は妻を憫み、妻は夫に

從ふべき理なり、少しも此理に逆へば、同穴の契りも、忽ち怨みを結ふべし、

○兄弟　兄弟は、父母に繼たる天

兄弟

倫なり、其親み久しきを樂むべし、兄は父につぎて尊むべし、弟は父母の子なれば、我が子よりも愛すべし、

○朋友

人の友となるには、互に善きことを勸め、惡き

ことを諫め正すを、本意とす、

苟も人の非を求め、惡事を求めば、遂には我が身の災となる、是朋友の道にあらず、

朋友はたのもしげありて、難あれば相助け患あれば相救ふべし、

○農

農は、田を作る民なり、田を作る業は人を養ふ本なれば、天

の時に從ひて、四時の勤を怠るべからず、

地の利に因りて、其土に宜き五穀を種ゑべし、

又身を慎み、儉約を守り、賦税を備へ私用をかゝ

ず、父母妻子に乏しからざるは、是、良農なり、

○工

工は、物を製造する職人なり、

各、其職を勉めて、懇ろに、麤惡ならざれば、買ふ

人多く、利を得ること多し、是良工なり、

○商

商は、物を賣る人なり、利を輕く取て、貪らず、人を欺かざれば、人、其物を多く買ふゆゑ、利を得ること多く、冨を得るゝと易し、

第三

○農工商　農工商は、仕官をなさずと雖も、國家を治め給ふ、天皇の恵みに因りて、太平の樂を受ることを喜び、其恩に報ふべし、

○家　家は、金殿にあらずとも、風雨露雪をしのぎ、漏らざればよし、

○貧　貧くとも、心、清ければ、常に樂あり、

○富　富りといへども、心濁れば常に憂あり、

○衣　衣は、錦にあらずとも、暖なればよし、

○食　食は、珍味にあらずとも、空腹ならざればよし、

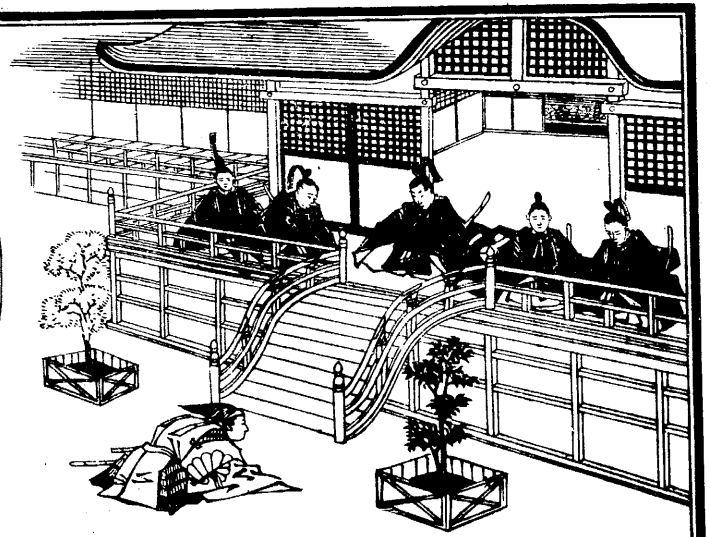
○理非　人間の事は非の中に理あり、理の中に非あり、細

かに察せずんばあるべからず、

○損益　大益を捨て、大損をする者あり、譬へば一字千金なる學問を、隙なくといひて、身を亡す遊には、日を費し、書物を求むべき價は、費なりといひて、無益の事には、金錢を惜まざるの類なり、

○毀譽

人の惡きは、言ふべからず、人の毀譽は、信ずべからず又僞とのみ、思ふべからず、徒に人の言を用うれば、大に相違のあるものなり、



○恭敬

禽獸と雖も、親を養ひ、子を恵むは、人

に同じ、
蟻の君臣、鴈の兄弟、羊の跪て乳を受け、烏の哺を反し、鶴の子を懐ひ、鹿の妻を戀ふ、皆然り、
人は萬物の靈なり、敬なくんば、禽獸にも劣れり、

○陰德

陰德とは、善を行ひて、人の知ることを求めざるなり、
古語に、陰德は、耳の鳴る

が如く、我獨り知りて、人は知らざるなりと、

○勤儉

勤儉の工夫は、忍にあり、忍は、耐ゆるなり、勞苦に耐へて、克く勤め、

私慾を制し、儉約を行ふべし、

小學初等

修身幼訓首編上 終

明治十五年十二月廿七日版權免許

同 十六年二月 出版

定價九錢

編纂人 東京府士族 木澤成肅

下谷區西町壹番地

同 士族 辻謙之介

本郷區元町壹丁目六番地

出版人 同 平民 阪上半七

日本橋區吳服町十二番地

發兌人 和歌山縣平民 北畠茂兵衛

日本橋區通壹丁目

首編

木澤成肅編纂

小學初等修身幼訓首編

卷下

175
7
296

自函 架 號

大日本教育會書籍館
一八函 三架 四一號 二冊

K110.1
46
2